

コード No. 10357

**Anti-Human
C-ERC/Mesothelin (22A31) Mouse IgG MoAb**

容量 : 100 µg

はじめに : *Erc* は腎がん発症モデル Rat (Eker Rat) の腎がん細胞において正常腎臓と比べて、高発現されている遺伝子として同定されたものです。このヒト **Homologue** は、MPF (megakaryocyte potentiating factor) や **Mesothelin** と呼ばれ、特に中皮細胞で発現がみられるタンパク質です。この分子は中皮腫との関わりが示唆されており、腫瘍マーカーとしての意義が予想されます。ヒトにおいてはその他にも膀胱がん、卵巣がん、肺がんなどとの関わりが示唆されています。全長分子量約 71 kDa の GPI アンカー型膜タンパク質として発現しますが、*furin* 様プロテアーゼによって消化されると言われており、その結果約 31 kDa と、約 40 kDa の断片となります。弊社では、40 kDa 断片を **C-ERC/ Mesothelin** として特異的な抗体を作製しました。

免疫抗原 : Human C-ERC/Mesothelin リコンビナントタンパク質

起源 : マウス×マウス ハイブリドーマ
(X63 - Ag 8.653 × BALB/c mouse 脾臓細胞, 腹水)

クローン名 : 22A31

精製方法 : Protein A による特異精製

包装形態 : 1% BSA, 0.05% NaN₃ 含有 PBS 1.0mL に溶解したものを凍結乾燥

再生方法 : 精製水 1.0 mL 添加 (この時濃度は 100 µg/mL となります)

保存方法及び安定性 : 2~8°C 保存 5年間安定
溶解後 -20°C 保存 2年間安定

使用目的及び使用方法 : 免疫組織染色 1~5 µg/mL にて使用可能
(ホルマリン固定、パラフィン包埋切片、マイクロウェーブ処理が必要)
: ウェスタンブロッティング 1~2 µg/mL にて使用可能
: フローサイトメトリー 1~2 µg/mL にて使用可能

文献 : 1. Establishment of novel mAb to human ERC/mesothelin useful for study and diagnosis of ERC/mesothelin-expressing cancers.
Ishikawa K, Segawa T, Hagiwara Y, Maeda M, Abe M, Hino O.
Pathol Int. 2009 Mar;59(3):161-6. doi: 10.1111/j.1440-1827.2009.02344.x.
PMID: 19261093
2. Antitumor activity of anti-C-ERC/mesothelin monoclonal antibody in vivo.
Inami K, Abe M, Takeda K, Hagiwara Y, Maeda M, Segawa T, Suyama M, Watanabe S, Hino O.
Cancer Sci. 2010 Apr;101(4):969-74. doi: 10.1111/j.1349-7006.2009.01463.x.
Epub 2009 Dec 9. PMID: 20100205